【本会議】令和6年9月定例会の概要

○ 主な補正予算の内容

項目	内容	補正予算額
低所得者支援及び定額減税補足給付金の支給	給付予定額が現計予算を上回る見込みとなったことによる増額	20 億円
ベンチャーファンドへの出資金	当地域のディープテック分野におけるスタートアップ企業の創出促進を図るため、ベンチャーファンドに出資	5 億円
衆議院議員総選挙等の執行	投票所・開票所経費、ポスター掲示場経費等	5.96 億円

○ 「河村前市長の退職同意」の採決について

河村たかし前市長から、令和6年10月14日付で退職したい旨の申し出があり、「退職に同意するかどうか」の採決が行われ、大島は反対票を投じました。
河村前市長が国政に想いを馳せることは、否定されるべきものではありません。
国会議員の立場から名古屋のために仕事をしていただけるのであれば、これまでよりもプラスになることだって、あるのかもしれない。
一方で、名古屋には今なお、様々な問題に苦しむ市民の方々がいることも、また事実。そして、河村前市長が「なんとかする」と言った言葉を信じてきた市民の方々を、大島は知っています。
だからこそ、今回の退職にあたって「やり切った」という言葉は受け入れ難かったし、衆院選に出るにせよ、その方々のために、市長として、ギリギリまで力を尽くすべきと考え、反対しました。

皆さまの声やご意見、ぜひお聞かせください!

大島ひでひろの市政報告をご覧いただき、誠にありがとうございます。
皆様の声を市政に届けて、より良い名古屋をつくるための仕事をしてまいります。市政へのご意見やお困りごとなどございましたら、
お気軽にメール(hidehiro.oshima.ra@gmail.com)
もしくは、公式LINE(右記QRコード)までご連絡ください。
どんな内容でも、お気軽にお問い合わせください!

公式LINE

発行責任者:名古屋市会議員　大島 英勲
〒465-0047 名古屋市名東区小池町60三和マンション1階
Tel/070-8909-9716　Fax/050-3094-8895
E-mail/hidehiro.oshima.ra@gmail.com

各SNSで市政情報など日々発信中!
フォロー・いいね!お願いします!
大島ひでひろ

身を切る改革、維新だからできる。
日本維新の会

日本維新の会　名古屋市会議員(名東区選出)

大島ひでひろ 市政報告 vol.6

～ 古い政治を壊す。新しい政治を創る。～

いつもありがとうございます。

いつも大島ひでひろの活動にご理解、ご支援ありがとうございます
この間、衆議院議員選挙が執り行われ、
ご支援いただいた皆様に、心より感謝申し上げます
それに伴う形で、河村前市長が退任、市長選になるなど、
名古屋の政治にも大きな変化が起こるタイミングとなりました
選挙戦を通じても、今の政治に対する不信や憤りのお声を、
非常に多くいただきました
このように今は政治の変わり目であり、時代の分岐点
今こそ「政治家のための政治」から脱却し、
「国民のため、この国の未来のための政治」を
名古屋から実現できるよう、力を尽くしてまいります
今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます
※本号では、9/13-10/16に開催された名古屋市議会・9月定例会の模様を中心にお知らせします

名古屋市会議員
大島ひでひろ

昭和60年名古屋市生まれ/愛知県立明和高校、中央大学法学部卒/
郵便局㈱(現・日本郵便㈱)入社後、社長秘書、経営企画部など歴任/
愛知維新の会事務局次長を経て、令和5年名古屋市会議員選挙(名東区)初当選/
現所属:日本維新の会名古屋市議団、愛知維新の会幹事長代行

9月定例会個人質問「いじめ問題の早期発見・長期化防止」

この夏、大島が視察に伺った大阪府寝屋川市では、
いじめ問題の対応を教育的アプローチと
行政的アプローチに分け、教育委員会と
市長直下の「監察課」が役割分担しています。
教育的アプローチは、時間をかけて当事者の
人間関係の再構築を進めるのに対し、
行政的アプローチは、「いじめの即時停止」に特化。
大島からは「名古屋でも参考にすべき」と提言し、
河村前市長から「大至急、寝屋川へ行く」と答弁を
得たものの、その約束は果たされず。
無念ですが、今後も取組みを続けてまいります。

○いじめ問題に対する新たなアプローチを

大島ひでひろ

いじめの早期発見・長期化防止については、名古屋でも
様々な取組みがなされてきたことは承知しているが、
これまでの間、状況が大きく改善するまでには至っていない、
というのが現実。
大切なのは、「教育現場がすべてを担う」ことではなくて、
一人でも多くの子どもが救われる仕組みをつくること。
寝屋川市のように、「教育的アプローチ」「行政的アプローチ」
を並走させ、これまで教育現場が一手に担ってきた
いじめ対応を役割分担して、市長部局の行政職員が
能動的にいじめを早期発見・停止するための
アプローチを行う取組みは、今後名古屋のいじめ対策に
おいても大いに参考にし、検討されるべき事例と考えるが、
河村市長のご所見を伺う。

「一人の子も死なせない」という公約は、実現されていない。
実際に、自ら命を絶つ子どもは減っていない。
名古屋で進めている常勤のスクールカウンセラーに加え、
大島議員が言う、行政的アプローチも手段だと思う。
大至急、寝屋川に行って状況を見て勉強して、
「一人の子も死なせない」という公約を実現したい。

河村前市長

決算委員会での議論/大島からの問題提起

9月定例会では、毎年「決算案の認定」を行っています。
つまり、議会は各委員会で、名古屋市の1年間の税金の遣い方を審査します。
大島は、所属する教育子ども委員会において、子ども青少年局・教育委員会に
対する議論、問題提起を行いました。(内容は要約/一部抜粋)

子ども青少年局関連;子どもの権利擁護機関(なごもっか)について

名古屋より人口が少ない札幌市では、同種の相談機関で初回相談件数が
名古屋の3倍近く。名古屋では対応していないメールやSNSでの相談件数が、
そのまま差になっている。こうした他都市の状況、そして、増加傾向にあるいじめ
認知件数や不登校者数を考えると、名古屋でも「誰かに相談したい」というニーズ
を持つ子どもは、潜在的にもっと多くいるように感じられる。広報の強化、手軽な
相談チャネルの拡充を研究し、「何かあっても、なごもっかに相談すれば良い」と
思ってもらえる子どもを一人でも増やすことができるよう、努めること。

<補足;「なごもっか」とは?>※詳細は右記QR参照
「なごもっか」は、子どもの権利を守るための相談室。
子どもの権利擁護委員と相談員がおり、悩みや心配ごとが
あれば、どんなことでも相談することができます。

なごもっか
マスコットキャラ
「なごもん」

教育委員会関連;小学校における新たな運動・文化活動について

昨年度定例会での大島の個人質問を経て、本活動の指標として設定された
「活動を通じて好きになった種目があるか」「これからも続けたいと思うか」
というアンケートの結果では、「活動を楽しいと感じる割合」「活動への参加率」と
同様に、高学年になればなるほど、その割合が下がってしまっている。
私も本活動の指導者をしていたが、「誰もが楽しく」という色合いが前に出て、
それ自体が悪いわけではないが、「うまくなりたい」「試合に勝ちたい」という
子どもには物足りない。そうしたニーズも「多様性」のはずだし、本活動を通じて、
「子どもたちにいかにより良い体験をしてもらうのか」が何より重要。
子どもや保護者のニーズと丁寧に向き合い、活動内容の充実を図ること。

<補足;「新たな運動・文化活動」とは?>
小学4年~6年生の子どもたちを対象に、以前は放課後に教員が
指導していた“部活動”に代わり、委託された民間事業者によって
行われている活動。「教員の働き方改革」が1つの主眼となっています。

※個人質問の様子は、動画をYoutubeにアップ →
しています。ぜひ右記QRコードからご覧いただき、→
ご意見などいただけたら嬉しいです! →